



福岡県

令和4年度

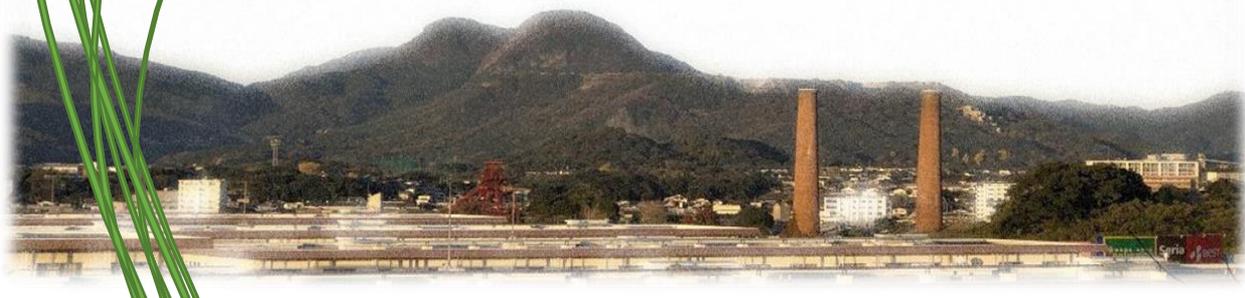
# 普及活動成果集



たくましい経営体への発展と、  
がんばる新規就農者の定着を  
わたしたちは全力で応援します。

令和5年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター





## 表紙写真タイトル

(関連部門)

ナシせん定講習会

(果樹)

春出しトルコギキョウ

現地検討会

(花き)

営農基礎講座 (機械)

(地域)

スナップエンドウ

現地講習会

(野菜)

麦播種前研修会

(水田農業)

普及活動スローガン

## はじめに

田川普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画が示す5つの目指す方向のもと、『たくましい経営体への発展と、がんばる新規就農者の定着を、わたしたちは全力で応援します。』を普及活動のスローガンとして、「人づくり」、「ものづくり」、「地域づくり」の3つの“づくり”を重点活動目標として定め、2つのプロジェクト課題と7つの部門別課題を設定し、普及活動を展開してきました。

活動に当たっては、市町村や農業委員会、JA等の関係機関・団体で構成する田川地域農業振興協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーや部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により取り組んできたものであり、この場をお借りして、関係の皆様へ感謝申し上げます。

さて、令和4年度は、昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、本県においては4～5月、7～9月、また12～2月にかけて福岡コロナ警報や特別警報が発動されました。これに伴い、生産組織やJAの部会活動が大きな影響を受けるとともに、直接農業者に接した活動を基本とする普及指導センターの活動も制約を受けることとなりました。

このような中、センターでは、感染防止に最大限の配慮を行いつつ、できる限り講習会や研修会の開催に努めるとともに、栽培管理に関する資料配布や個別巡回指導の強化等により、できるだけ農業者の皆さんの相談にも対応できるよう取り組んできました。

この成果集は、本年度の普及活動で成果の上がった事例や地域での新しい取り組み等をわかりやすく取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、「担い手づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

センター長 齋藤 和裕



## 目次

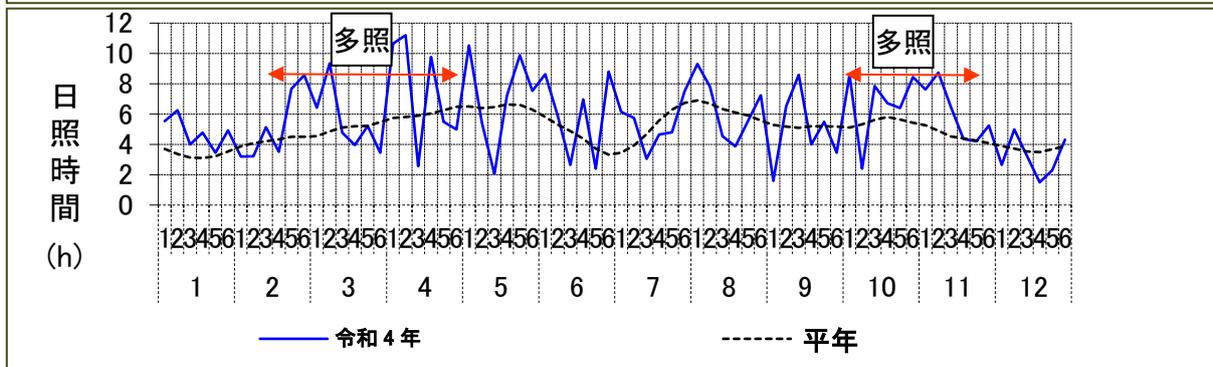
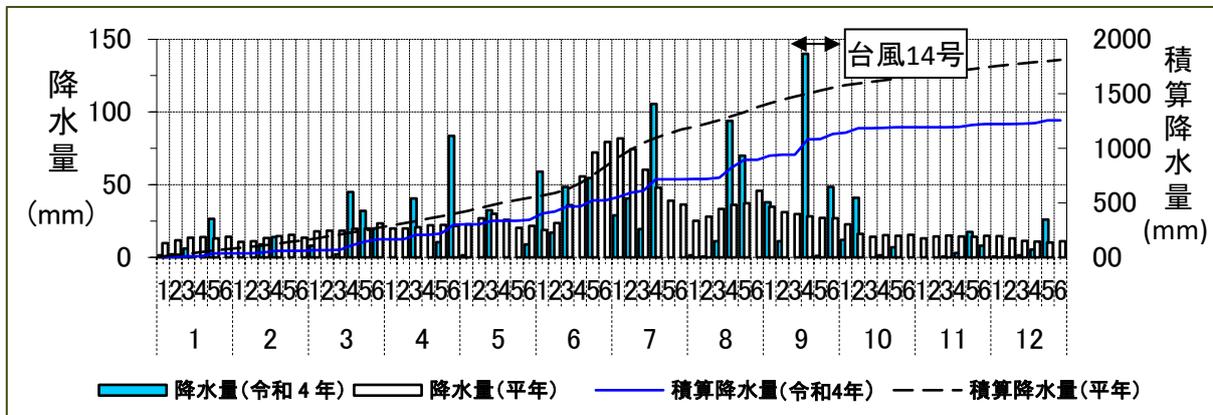
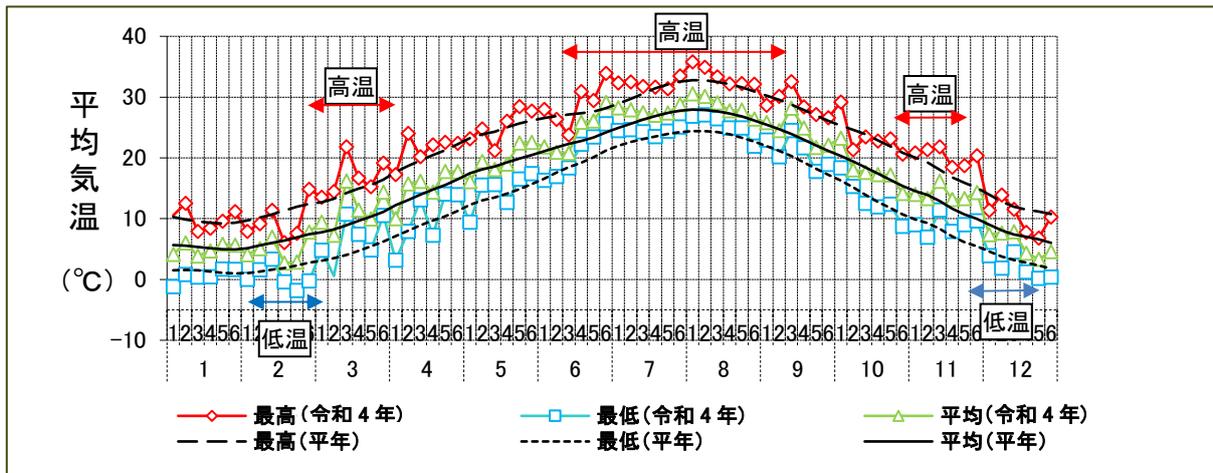
1	令和4年度農業生産の概要	1
	(1) 気象の概要	
	(2) 主な品目の生産概要	
2	普及活動の主な成果	4
	(1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興	
	(2) 香春町の農業・農村の活性化	
	(3) 水田農業担い手の経営安定	
	(4) なす作型拡大による周年供給体制の確立と生産強化による産地活性化	
3	管内の動き（トピックス）	10
	(1) 福岡県大豆作共進会・麦作共励会で田川地域から連続受賞	
	(2) 管内初の大豆採種ほ設置	
	(3) ICT機器を活用しハウス内環境を見える化	
	(4) イチジクハウスにおける高温対策	
	(5) ケイトウの大苗育苗による労働力削減と品質向上	
	(6) 東部トルコギキョウ部会で土壌分析に基づく土作りを推進	
	(7) 女性認定農業者の育成	
	(8) 青年農業士が相互情報交換会を開催	
	(9) 田川4Hクラブの経営力向上プロジェクト	
	(10) 田川4Hクラブが50周年記念大会を開催	
4	各種表彰の受賞者一覧	15
5	主な実証ほ・展示ほ一覧	16
6	現地活動情報一覧	18
7	普及指導員調査研究一覧	20
8	普及指導センターの活動体制	21

# 1 令和4年度農業生産の概要

## (1) 気象の概要

令和4年の平均気温は高く（平年値+0.6℃）、降水量は少なく（平年比69%）、日照時間は長く（平年比114%）なりました。

梅雨入りは6月11日（平年より7日遅れ）、梅雨明けは7月22日（平年より3日遅れ）となりました。また、6月30日には35.7℃を記録するなど、7月前より猛暑となり、空梅雨となりました。その後、台風14号の影響で9月19日に最大風速11.5m/s、最大瞬間風速25.4m/sを記録しました。



飯塚アメダスデータに基づき作成

# 1 令和4年度農業生産の概要

## (2) 主な品目の生産概要

### **水稲**:7~8月の高温やカメムシ類の発生により品質低下

水稲作付面積は1,768ha と前年並みとなりました（品種割合：夢つくし61%、元気つくし19%、ヒノヒカリ17%）。少雨により一部ほ場では、田植えが遅れ、また雑草が発生しました。出穂期は高温により平年より3~5日早まりました。台風14号の影響で、『ヒノヒカリ』を中心に倒伏被害が発生しました。

県北東部における水稲の作況指数は102の「やや良」でした。JA たがわ管内では、高温やカメムシ類による乳白・吸汁害が目立ち、2等米が79%占めました。

### **麦類**:出穂・成熟期は平年より早く、収量は平年を上回り、品質も良好

令和4年産の麦類の作付面積は699ha（小麦662ha、大麦37ha）と、前年並みとなりました。播種期から生育期間を通じて天候に恵まれ、収穫は平年より7~8日早く、大麦で5月12日頃から、小麦で5月23日頃から始まりました。10a当たりの収量は378kg（小麦382kg、大麦280kg）と平年収量の275kg（小麦279kg、大麦181kg）を上回りました。品質は全量1等となりました。

### **大豆**:適期播種されたものの、9月の台風と10月の乾燥により減収

大豆の作付面積は420ha と前年並みとなりました。また、今年産から新品种『ちくしB5号』（ふくよかまる）に全面的に切り替えました。降雨直後でも播種可能な「部分浅耕—工程播種」技術の導入や適期播種を推進し、概ね適期内の7月20日までに播種ができました。播種後の生育は順調でしたが、台風14号の影響により管内300haのほ場で倒伏が発生しました。また、乾燥により小粒傾向となり、10a当たりの収量は67kg（2月時点）と平年の78%となりました。

### **イチゴ**:台風の影響受けるも花芽分化は順調

早期作型、普通促成作型ともに花芽分化は順調でしたが、台風の影響により、定植が数日~一週間程度遅れました。定植後は、少雨・高温傾向でしたが、早期作型は草勢維持管理の徹底により、2番果もスムーズに分化しました。11月以降の夜温の急激な冷え込みにより生育は緩慢となり、出荷開始時期は早期作型で例年と比べ7日程遅く、普通促成作型は10日程遅い年明け以降となりました。

### **小松菜**:夏期の高温による発芽不良や葉先枯れが多発

6月中旬までは天候に恵まれ順調な生育が続いていましたが、6月下旬頃から、曇天高温が続き立枯病や軟腐病の発生が多くなりました。その後、8月上旬~9月上旬に収穫する作型では高温のため、寒冷紗の被覆を行っていたほ場においても、発芽不良や葉先枯れが多く見られました。気温が下がった10月以降は順調に生育しました。

# 1 令和4年度農業生産の概要

---

## **アスパラガス**:春芽の収量伸び悩み、保温対策が課題

春先は気温の上昇が鈍かったことから、二重被覆を行っていないハウスでは春芽の萌芽勢が弱く、また8月の高温による規格外品の増加、9月の台風接近後は斑点性病害が発生し、総収量は前年比90%を下回りました。このような中でも、他産地と比べ春芽の出荷割合は高かったことから、平均単価は県下最高額となりました。

## **夏秋なす**:品種に応じた草勢管理を徹底

定植直後から好天に恵まれ、誘引・剪定作業、収穫開始が例年より早く進みました。8月上旬には夜温が30℃を下回らない日が続き、一時的に日焼け果の発生が多くなりました。また、9月中下旬の台風被害を受けたほ場が多く、10月の収量が伸び悩みましたが、『筑陽』に応じた草勢管理の徹底により、9月上旬まで安定した出荷ができました。

## **秋冬野菜**:台風の影響を受け、生育・出荷開始に遅れ

7月中旬の多雨によりほ場準備が進まず、定植遅れが多く見られ、定植後は台風による苗の倒伏・流亡などの被害を受けました。その後は防除や中耕・追肥の徹底により生育は回復し、7～10日程度遅れた出荷開始となりました。

## **イチジク**:品質は概ね良好ながら高温乾燥で小玉傾向

比較的好天が多く生育は順調で、収穫開始は平年並みとなりました。品質は概ね良好でしたが、高温乾燥による果実の小玉傾向や成熟異常果の発生に伴い昨年度に比べ出荷量は減少しました。

## **トルコギキョウ**:秋出しトルコギキョウの販売好調

栽培期間を通して、概ね天候に恵まれ、ブラスチング（蕾の枯死）の発生は少ない状況でした。定植初期のかん水不足等によるボリューム（草丈）不足、害虫の被害が一部で認められましたが、販売は出荷期間を通して好調でした。

## **ケイトウ**:台風の影響を受けるも、選別徹底により販売額は昨年と同等

台風により株の倒伏やフラワーネットによる擦れ傷が発生し、秀品率は低くなりました。しかし、目合わせ会時に選別の徹底を図ったことにより、規格別の単価が上がり、販売額は昨年と同じになりました。

## 2 普及活動の主な成果

### (1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興

#### 1 課題化の背景

田川地域は、園芸品目に取り組む複合経営体が少なく、園芸主体の経営体でも各品目の経営規模が小さい状況です。

また、JA共販体制が整っている品目があるものの、産地規模は他の地域に比べ小さく、市場からは産地規模の拡大が期待されています。

このような中、園芸振興のため、ICT技術や省力栽培技術の導入、JA全農ふくれん県北広域販売センター（以下：県北PC）の活用、農福連携による多様な人材活用の取組を進め、園芸品目を組み合わせた複合経営体の育成を目指しました。

#### 2 活動の内容

##### (1) 園芸振興方針策定と実践

市町村、JAたがわ、田川普及指導センター等で構成する田川地域農業振興協議会において、昨年度策定した田川地域農業振興計画に基づき、JAや普及指導センターを中心に、複合経営体の育成を推進しました。

また、各市町村やJAの園芸担当者のICT技術への理解を深めるため、ICT機器メーカーから講師を招聘した講演会や、すでに機器を導入している先進農家の施設で研修会を開催しました。

##### (2) 複合経営モデル農家の育成と波及

JA等と選定した「さやえんどう」や「ブロッコリー」、「ケイトウ」、「イチジク」などを取り入れた経営モデルに取り組む農家の育成に向け、JA機関紙への掲載による品目別の生産者募集や説明会を実施しました。

##### (3) 園芸品目導入に向けた省力化の推進

園芸品目は、選別や調製作業に時間がかかるものが多いため、これらの作業を外部に委託することで経営規模拡大が期待できます。

そこで、夏秋ナス・ブロッコリーについては選別・調製・販売が委託できる県北PCの活用を推進し、作付け規模の拡大を提案しました。

また、省力技術の導入を図るため、定植機、施肥機、防除機の実演会や追肥作業の省力化を進める施肥改善講習会を開催しました。

さらに施設環境の「見える化」を進め、どこにいても施設内の環境が確認できるよう、ICT技術を使った環境測定機器の導入を推



ICT技術研修会

## 2 普及活動の主な成果

進しました。

農福連携を一層進めるため、すでに福祉施設へ作業依頼している農家と福祉施設の職員で、利用拡大の方策について意見交換と課題整理を行いました。

### 3 主な成果

#### (1) 園芸振興方針策定と実践

関係機関にも、品目の複合化による経営改善の取組やICT技術導入への理解が深まり、田川地域農業振興計画推進の活動体制が強化されました。

#### (2) 複合経営モデル農家の育成と波及

水稻農家6戸がブロッコリーを、園芸農家10戸がさやえんどうやイチジクを導入するなど、新たに複合経営に取り組む農家が育成出来ました。また、ブロッコリーは産地としておよそ1.6ha面積が拡大し、さやえんどうは新産地として共同販売を開始しました。

#### (3) 園芸品目導入に向けた省力化の推進

ブロッコリー農家8戸が新規に県北PCの利用を開始しました。また、水稻農家2戸がドローン防除機を、花き農家1戸が土壌消毒機を導入し、夏秋なす農家7戸が省力的な施肥体系へ転換するなど、省力化技術の導入が進みました。

ICT機器の導入は、小松菜農家1戸がハウス環境の測定機を導入して日射量や積算温度などの栽培環境データの集積をはじめるとともに、いちごやなす農家が環境測定機導入の検討を始めました。

農福連携については、これまでに園芸農家6戸が調製や除草作業などで取組を行っていますが、さらに活用を進めいくためには、農家側が依頼する作業内容を細分化し任せ作業をリスト化しておくなど、事前準備の重要性が確認できました。



省力化機械実演会

### 4 今後の取組

関係機関と連携を取り、新たに経営モデルに取り組む農家の掘り起こしを行い、栽培に取り組み始めた農家には安定した収量確保のための技術習得支援や規模拡大などの経営相談を実施していきます。

さらに、ICT機器など省力化につながる新しい技術導入を行うとともに、県北PC利用や福祉との連携といった外部労働力の活用を進め、園芸農業の振興につなげていきます。

## 2 普及活動の主な成果

### (2) 香春町の農業・農村の活性化

#### 1 課題化の背景

都市近郊の中山間地に位置する香春町の農業は、麦や大豆、特産品として干し柿、ユズ、レンゲ米等が生産されています。しかし、担い手の減少・高齢化により集落機能が低下してきており、獣害や耕作放棄地の拡大も顕在化しています。また、特産品の生産量は漸減傾向で、既存品目の維持拡大と新たな特産品による活性化が必要です。

そこで、多様な担い手の確保・育成と強化に向けた取組、特産品づくりや新規品目導入に向けた支援を行いました。

#### 2 活動の内容

##### (1) 多様な担い手の確保・育成と強化

町、JA、普及指導センターによる担い手会議を開催し、担い手の確保等に関する検討を行うとともに、町内の担い手を対象に、後継者や農地利用意向についてのアンケートを実施しました。また、集落営農法人に対する経営規模の拡大推進・栽培技術支援や、就農希望者に対する相談会を行いました。

##### (2) 有利販売のための仕組みづくり

町、JA、商工会、道の駅、普及指導センターによる香春町特産品・特産物推進検討会を設置し、農業者等を含めた特産品づくり協議会の設立に向け協議を行いました。また、既存特産品の課題整理や香春町に適する新規品目について検討を行いました。

##### (3) 地域に適したものづくり

新たな特産品を目指し、直売所で地元産の要望の高い、ホオズキの栽培展示ほを設置するとともに、香春町ではサル害が懸念されるため、併せて獣害防止展示ほ（猿落君）を設置しました。

また、干し柿については、商品力向上を目指し、衛生管理研修会や先進地視察研修を実施しました。ユズは、生産量を安定させるための剪定講習会を行いました。



試作したホオズキと猿落君  
(猿落君：青いダンポールと  
ホオズキを囲むネット)

## 2 普及活動の主な成果

### 3 主な成果

#### (1) 多様な担い手の確保・育成と強化

担い手会議で協議を行い、将来の担い手や土地利用計画を明確にする集落ビジョンの作成を行う地区を選定しました。また、集落営農法人への支援により、飼料用米(R3:10ha→R4:12ha)及び麦(R3:7.9ha→R4:9.2ha)の作付拡大が図られました。新規農業就業者は、4名(自営2名、雇用2名)確保できました。

#### (2) 有利販売のための仕組みづくり

香春町特産品・特産物推進検討会において、農業者を含めた協議会を次年度当初に設立することで合意しました。また、干し柿、ユズ、レンゲ米等の現在の生産状況や、生産量を確保するための課題整理等を行いました。令和5年度に検討する新規品目として、販路が見込め、今後の普及拡大が期待できるビーツを選定しました。

#### (3) 地域に適したものづくり

ホオズキの栽培展示ほの設置で、香春町における栽培適性が確認され、順調に販売もできたことから、1戸が導入することとなりました。また、獣害防止柵「猿落君」のサル害に対する有効性が確認できたことから、他品目での導入も検討されています。

干し柿は、研修会により衛生管理に対する意識が高まり、取組を継続していくこととなりました。ユズは、講習会の開催を通じて、作業性改善や生産量を安定させるための低樹高化の取組が始まりました。



ユズの剪定講習会

### 4 今後の取組

担い手アンケートの結果を分析し、関係機関と連携して、集落ビジョンの作成支援を行います。集落営農組織については、引き続き経営支援を行っていきます。

また、農業者等を含めた特産品づくり協議会を設立し、生産性・商品力向上に向けた取組を進めていきます。

## 2 普及活動の主な成果

### (3) 水田農業担い手の経営安定

#### 1 課題化の背景

管内では21の集落営農組織（内9法人）や個別大規模農家が、水田農業の中心的な担い手として水稲、麦、大豆を生産していますが、麦及び大豆の収量は県平均を下回り、飼料用米も収量が少ない状況でした。また、麦については、品質で重視されるタンパク質含有率が低いという問題がありました。

#### 2 活動の内容

##### (1) 麦・大豆の単収・品質の向上

麦・大豆の単収向上のためには、適期播種が重要です。そのため、JAたがわ麦・大豆部会において、降雨後でも播種が容易な「部分浅耕—工程播種」技術の導入を推進しました。また、麦のタンパク質含有率を増加させるため、講習会や管理情報で穂揃い期追肥等の栽培管理を徹底しました。大豆については、カメムシ被害による単収・品質の低下が問題となっていたため、防除体系を改善する実証ほを設置しました。

##### (2) 飼料用米の単収向上

JAと協議を行い、これまでの食用品種から多収の専用品種『夢あおば』に変更し、品種に適した施肥量や病害虫防除について指導しました。

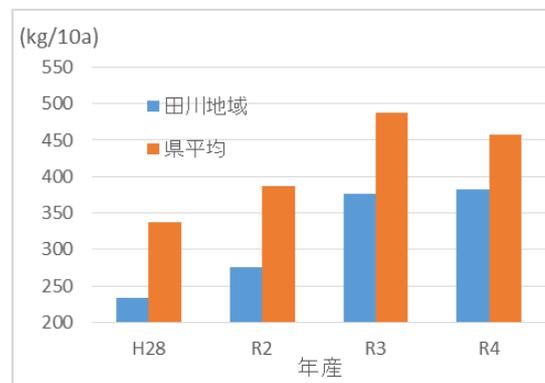
#### 3 主な成果

##### (1) 麦・大豆の単収・品質の向上

県平均の6割程度であった麦・大豆の単収は、8割を超えるまでになりました。また、令和3年産及び令和4年産『ちくしW2号』（ラ—麦）のタンパク質含有率は、基準の12%を超え、県下でトップとなりました。

##### (2) 飼料米の単収向上

10a当たりの収量が600kgを超える生産者は、令和元年産では1名でしたが、2～4年産では8名に増加しました。



小麦の単収の推移

#### 4 今後の取組

麦については、単収向上により生産量が確保され、タンパク質含有率が高位安定する産地となったため、単価が高い硬質小麦の生産拡大に取り組みます。大豆については令和4年産から採種ほが設置されたため、全量合格に向けた取組を進めます。

## 2 普及活動の主な成果

### (4) なす作型拡大による周年供給体制の確立と生産強化による産地活性化

#### 1 課題化の背景

普及指導センターでは、初期投資が少なく市場価格も安定している露地なすに着目し、田川の特徴ある品目として、JAと協力して栽培を推進してきました。令和3年度からは、従来の品種である『大豊』から『筑陽』へ全面的に切り替えました。また、全農ふくれん県北地区広域販売センター（以下、県北PC）への出荷も開始されました。さらに、露地なす農家のうち1戸が令和2年度から新たに促成栽培に取り組み、産地内で周年出荷が開始されました。

#### 2 活動の内容

##### (1) 収量の向上

『筑陽』の露地栽培技術を確立させることで、栽培経験が浅い農家の技術力を向上と、部会の半数を占める低収量者を10t/10a以上の高収量農家に育成することで、部会全体の生産力の底上げを図りました。

##### (2) 産地規模の拡大

作型拡大による産地の周年出荷体制の強化に向け、促成栽培に加え雨よけ栽培の新規栽培者の確保に取り組みました。

#### 3 主な成果

##### (1) 収量の向上

『筑陽』の品種特性に応じた肥料体系・整枝剪定法の試験を行い、樹勢維持と出荷量の平準化に繋がりました。

露地なすの10t/10a以上の高収量農家数が、令和元年度に比べ4戸増え、延べ6戸となりました。

##### (2) 産地規模の拡大

高齢化による規模縮小が数件ありましたが、雨よけ栽培の増加と、県北PC利用者の規模拡大により、面積は1.23haに拡大しました。



『筑陽』露地栽培ほ場

#### 4 今後の取組

肥料体系や整枝剪定法などの新たな技術導入により、生産性向上を支援していきます。また、空きハウスや品目転換による促成なす栽培や雨よけ栽培を推進することで、周年出荷体制の更なる強化を図っていきます。

### 3 管内の動き(トピックス)

#### (1) 福岡県大豆作共進会・麦作共励会で田川地域から連続受賞

令和3年度福岡県大豆作経営改善共進会・農家の部で、農事組合法人榊田落合営農組合(添田町)が優良賞、令和4年度福岡県麦作共励会・農家の部で、松井清司氏(福智町)が優良賞を受賞しました。田川地域からは、大豆作共進会は3年連続、麦作共励会は6年連続での受賞となります。

農事組合法人榊田落合営農組合は、中山間地域において、額縁明きよ等の排水対策を徹底するとともに、部分浅耕—工程播種技術を導入し、適期播種することで収量160kg/10aを達成したことが評価されました。

松井清司氏は、硬質小麦『ちくしW2号』(う—麦)の栽培にいち早く取り組むとともに、試験的に硬質小麦『はる風ふわり』を栽培しています。また、部分浅耕—工程播種技術を導入し、労働時間と燃料費削減に努めたことが評価されました。



大豆作経営改善共進会、麦作共励会の受賞  
右 : (農)榊田落合営農組合 白石組合長  
中央 : 松井清司氏(福智町)  
左 : JAたがわ麦大豆部会 山口部会長

#### (2) 管内初の大豆採種ほ設置

令和4年度に初めて、田川地域において大豆の採種ほが設置されました。

普及指導センターでは、これまで大豆の安定生産に向けて、適期播種の推進や部分浅耕—工程播種技術の普及などに取り組んできました。これらの取り組みにより、管内の平均単収は概ね県平均まで増加してきており、地区によっては県平均を上回っています。また、令和4年産から県内で先駆けて新品種『ちくしB5号』(ふくよかまる)へ全面切り替えを行い、高品質大豆の安定生産に積極的に取り組んでいます。この結果、産地としての信頼を得て、『ちくしB5号』の採種ほが福智町に12ha、添田町に3ha設置されました。

JAや種子生産組合と連携を密に取り、種子の全量合格を目指して、適期播種を推進するとともに、生育中期には現地検討会を行いました。特に、収量、品質に直結するカメムシ対策に重点を置き、防除指導を行った結果、責任生産量を上回る高品質な種子が生産できました。



新品種『ちくしB5号』  
(ふくよかまる)

### 3 管内の動き(トピックス)

#### (3) ICT機器を活用しハウス内環境を見える化

普及指導センターでは、管内の冬春なすにおいて、2年前からハウス内に環境測定機器を設置しています。このデータをスマートフォンでリアルタイムに確認しながら、農家が生育状況に応じた細やかな管理ができるよう、ハウス内環境の見える化について支援を行ってきました。同じように施設で栽培を行うアスパラガス農家からも、温度やかん水管理を判断する自身の感覚を不安視する声が聞かれていました。

そこで、高収量を上げているアスパラガスのハウス内に環境測定機器を設置し、そのハウスで現地講習会を開催しました。講習会では、立茎開始時期の時間ごとの環境を測定・見える化し、適切な夜温や土壌水分の管理について、実際のほ場状況と見比べながら活発な意見交換をすることができました。

また、環境測定機器の設置はいちごのほ場においても開始しており、ICT機器の活用でハウス内環境を的確に把握し、適切な管理に活かすことが期待されています。



アスパラガスハウスにて  
環境測定機器の説明会

#### (4) イチジクハウスにおける高温対策

近年、イチジクの施設栽培において、夏季の高温により成熟異常果が発生し、出荷率や秀品率が低下しています。そこで、収穫開始直後の7月に、妻面の一部を切り取り、防虫ネットと巻き上げ装置を取り付けた換気設備を設置することで、ハウス内温度の上昇抑制に取り組みました。昨年度に同様の試験を行いましたが、より長い期間で効果を検証するため、昨年度より設置時期を早めました。なお、設置費用はハウスの両妻面で3万円未満と低コストで設置することができました。

この換気設備により、最高温度を未設置ハウスと比べ約1.0℃下げることができましたが、成熟異常果の発生抑制効果は判然としませんでした。なお、未設置ハウスと比べ果実の成熟が早まる可能性があるため、収穫時期の違いについて、引き続き調査を行っていきます。



換気設備を設置したハウス

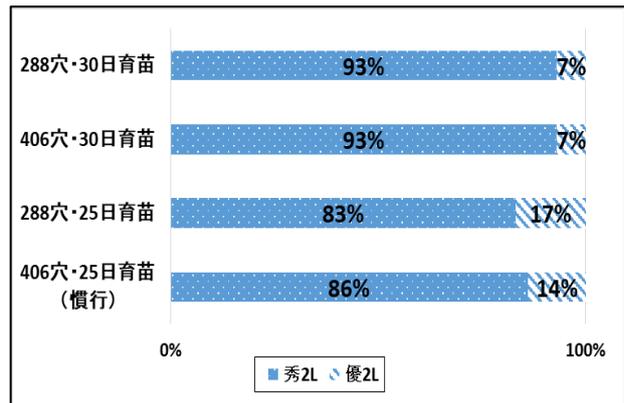
### 3 管内の動き(トピックス)

#### (5) ケイトウの大苗育苗による労働力削減と品質向上

J Aたがわケイトウ部会は、8月のお盆や9月の彼岸の需要期に向けて作付けを行っており、6～7月に406穴のセルトレイで25日間育苗した苗（以下、慣行苗）を定植しています。しかし、苗が小さく根張りが悪いため、定植作業の遅延や高温乾燥による活着不良が発生しています。

そこで、育苗トレイの大きさと育苗期間の異なる苗を定植する実証ほを設置し、定植にかかる時間や収穫時の切り花品質等を調査しました。その結果、慣行苗に比べ、406穴で育苗期間を5日延長した30日苗（以下、大苗）の定植時間は、10a 当たり4時間短く、収穫時の等階級別の秀2L率は7ポイント高くなりました。

調査結果は、反省会で全部会員、J A、育苗センターと情報共有を行い、部会として、定植作業の省力化、切り花の品質向上が見込まれる大苗の導入を進めていくこととなりました。



収穫時切り花の等階級別発生率

#### (6) 東部トルコギキョウ部会で土壌分析に基づく土作りを推進

J Aたがわ東部トルコギキョウ部会では、堆肥を毎年施用しており、10a 当たり1.5 t 以上施用している部会員もいます。堆肥は土作りに有効ですが、毎年多量に施用すると、土壌中に過剰な窒素の蓄積を引き起こし、切り花品質の低下を招く可能性があります。

普及指導センターでは、堆肥の施用により増加するとされている「可給態窒素（作物にゆっくり吸収される窒素）」の測定を、簡便なパックテストCOD法を用いて、今年度初めて行いました。

部会員9名の植え付け(堆肥施用)前のほ場の可給態窒素量は2.6～5.7kg/10a で、概ね施設内土壌の適正量とされる3～5kg/10a の範囲内でした。一方、栽培終了(堆肥施用)後の可給態窒素量は3.1～7.4kg/10a と、適正值の上限5kg を超えたほ場が4か所あり、堆肥施用により増加する傾向が見られました。

この結果を出荷反省会で報告し、部会内で堆肥の多量施用の問題点を共有しました。次年度以降、可給態窒素量の多いほ場において堆肥の施用量を減らす取組を行い、健全な生育と資材経費の削減を目指します。



可給態窒素の測定

### 3 管内の動き(トピックス)

#### (7) 女性認定農業者の育成

田川地域では、7名の女性認定農業者が自身の経営発展に向けて取り組まれています。普及指導センターは、関係機関と連携しながら、女性農業者の経営参画を推進するとともに、より多くの女性認定農業者を育成するための取組を重点的に実施しています。今年度は認定農業者を目指す女性農業者を中心に「認定農業者制度等の勉強会」や「新規品目導入に関する視察研修会」を開催しました。

勉強会では、「認定農業者制度とは？」から「農業経営の現状把握と今後の目標に向けた計画策定」について学びました。また、視察研修会では、経営改善計画策定の中で検討されている新規品目について、先進地の栽培視察や実需者との意見交換を行ったことで、経営方針が明確化し、認定農業者への決意が強まりました。



認定農業者制度の勉強会



花木の先進地視察研修

#### (8) 青年農業士が相互情報交換会を開催

農業経営の若手リーダーとしての資質向上を目的に、青年農業士（朝倉支会、八幡・行橋支会、飯塚支会）が、相互情報交換会を12月8日に開催しました。

今年度は、令和3年度全国優良経営体表彰で全国表彰を受けた田川市の有限会社グロウテックを視察し、意見交換を実施しました。

グロウテック代表取締役の佐野孝之氏から「5S」を始めとした働きやすい職場環境づくり、経営者の仕事、日頃どんなことを考えているか等の話を伺いました。その後、経営者としての悩みを題材に、人材採用・育成や新規品目導入、事業承継、今後の農業展望等について、青年農業士相互で語り合いました。

今回の研修をきっかけに、青年農業士がもっと交流を増やし、自身の経営力を磨いていきたいとの声が聞かれました。



(有)グロウテックの佐野代表と意見交換する青年農業士

### 3 管内の動き(トピックス)

#### (9) 田川4Hクラブの経営力向上プロジェクト

田川地区農業青年クラブ連絡協議会(田川4Hクラブ)では、毎年クラブ員が栽培技術向上や経営改善のため、プロジェクト活動に取り組んでいます。今年度は経営力向上を目的に共同のプロジェクト活動に取り組みました。

きっかけは、クラブ員が現在の経営状態を十分に把握しておらず、今後の営農計画を立てる際に、将来の経営像が明確に想像できないことでした。売り上げや経費など数値として経営の現状を見える化し、そこから取り組むことを決定する手段として簿記の勉強をしたいという意見が挙がり、7月から簿記勉強会を開始しました。

クラブ員は仕事終わりに普及指導センターに集合し、普及指導員がクラブ員の理解度を把握しながら、講義を行いました。理解度を確認するために農業簿記検定を受験し、合格したクラブ員もいました。

今回学んだことを活かして、決算書作成にクラブ員自らが携わり、数字を読み取るなど経営の現状把握に努めることとしています。また今後の決算書から将来必要な生活費を含めた農業経営シミュレーションを行なっていきます。



4Hクラブ簿記勉強会

#### (10) 田川4Hクラブが50周年記念大会を開催

田川地区農業青年クラブ連絡協議会(田川4Hクラブ)は、2月10日、創立50周年を祝した記念大会を開催しました。田川4Hクラブは創立以来、様々な活動をとおして自己研鑽や地域農業の発展に努め、OB・OGの協力を受け活動を行ってきました。当日は現役クラブ員から、現在の活動紹介や、福岡県青年農業者会議で県知事賞を受賞した意見発表及びプロジェクト発表を行い、その後交流会を実施しました。

出席したOB・OGは、現在の活発な活動に感心した様子で、現役クラブ員と積極的に意見交換を行いました。現役クラブ員はこれまで関わりの少なかった先輩農業者と交流することができ、今後の4Hクラブの活動や自身の経営に活かせるアドバイスを受けるなど良い機会となりました。



田川4Hクラブ 50周年記念大会

## 4 各種表彰の受賞者一覧

表彰事業名	受賞者・組織	受賞内容	市町村
福岡県農業指導 功労者表彰	松崎 裕治氏	長年にわたり県指導農業士を務められ、次代を担う農業青年の確保・育成に尽力し、また、小学校の校外学習指導や県農業大学校、県立田川科学技術高校の研修に積極的に協力頂く等、県農業の発展に大きく貢献されていることが評価されました。	田川市
第23回福岡県 農林水産まつり	幾重の会	<b>農林水産賞「地域集団の部門」優秀賞</b> 地域の小学生を対象に、地元産大豆を使った豆腐づくり体験を通じた食育活動を長年ボランティアで行い、地域の食育推進に大きく貢献していることが評価されました。	—
令和3年度福岡県 大豆作経営改善共進会	農事組合法人 榎田落合営農組合	<b>「集団の部」優良賞</b> 中山間地域において、額縁明きよ等の排水対策を徹底するとともに、部分浅耕—工程播種技術を導入し、適期播種することで収量160kg/10aを達成したことが評価されました。	添田町
令和4年度福岡県 麦作共励会	松井 清司氏	<b>「農家の部」優良賞</b> 硬質小麦『ちくしW2号』の栽培にいち早く取り組むとともに、部分浅耕—工程播種技術を導入し、労働時間と燃料費削減に努めたことが評価されました。	福智町
令和4年度福岡県 花き品評会	谷口 純男氏	<b>「技術・ほ場の部（トルコギキョウ）」 全国農業協同組合連合会福岡県本部長賞</b> トルコギキョウ『エレスライトピンク』のボリュームのある莖葉と花型の良さが評価されました。	川崎町
令和4年度福岡県 花き品評会	井上 茂之氏	<b>「産物の部」九州農政局長賞</b> トルコギキョウ『セレブリッチホワイト』の花のボリュームと花型の良さが評価されました。	添田町
令和4年度福岡県 花き品評会	井上 茂之氏	<b>「産物の部」日本花き生産協会長賞</b> ラナンキュラス『ラックスグレース』の光沢ある花弁と莖の硬さが評価されました。	添田町
令和4年度福岡県 花き品評会	井上 貴之氏	<b>「産物の部」福岡県知事賞</b> トルコギキョウ『セレブクイーン』の花のボリュームと莖の硬さが評価されました。	添田町
令和4年度福岡県 青年農業者会議	高瀬 寛人氏	<b>「意見発表の部」知事賞（優秀賞）</b> 規模拡大させるという経営者としての目標や田川の農業を発展させるという熱い思いが高く評価されました。	添田町
令和4年度福岡県 青年農業者会議	中村 篤氏	<b>「プロジェクト発表の部」知事賞（優秀賞）</b> 経営力向上のために田川4Hクラブで取り組んだ簿記勉強会や経営シミュレーションについての取り組み内容が高く評価されました。	川崎町

## 5 主な実証ほ・展示ほ一覧

対象作物名	課題名	結果概要	設置場所
田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
露地なす	露地なす栽培におけるカルシウム資材の葉面散布による病害抑制効果の検討	カルシウム散布開始時期が想定より遅くなり、資材による抑制効果は判然としなかった。うどんこ病が発生してからの防除では抑制効果は低いことから、日照不足や強風等、葉が軟弱になりやすい条件下に集中して加用することで、うどんこ病の初期発生抑制に繋がると思われる。	香春町
露地なす	『筑陽』の露地栽培に適した整枝・剪定方法の検討	葉残し剪定法は樹勢維持に有効であるが、7月下旬以降葉の混み合いにより作業性の低下がみられた。葉残し剪定は摘芯前の7月下旬までとし、摘芯後は従来の切り戻し剪定法に戻す方が、『筑陽』の露地栽培に適していると思われる。	大任町
小松菜	折り畳み式コンテナを活用した輸送による品質及び経費低減効果の検討	折り畳み式コンテナを輸送に活用しても品質低下は認められなかった。コンテナは段ボールに比べ重量が重く使用個数が多くなると作業者の負担が増加する等の意見が出た。導入コストはかかるものの、年間の使用回数が12回を越えると経費低下につながる事が確認できた。	大任町
ブドウ	ブドウ栽培における袋状ネットを利用した鳥獣害対策	鳥獣害対策としてブドウを保護する袋状ネットの試験を行ったが、試験園全体で被害がなかったため効果は判然としなかった。しかし、袋状ネットの設置にかかった費用や労力を考慮すると、慣行の防鳥ネットと比べ安価で容易に対策ができる可能性がある。	川崎町
イチジク	イチジク『とよみつひめ』改植時における線虫防除剤施用によるセンチュウ対策	苗木の伸長に差がみられず、効果は判然としなかった。原因として、施用量が少なかったことや効果が出るのに複数年かかる可能性が考えられる。施用方法を検討し、センチュウ密度も含め引き続き調査を実施する。	田川市
イチジク	イチジク『とよみつひめ』の無加温ハウスの妻面改良による高温障害果対策	高温障害果の発生抑制を目的に、ハウスに換気窓を設置した。昨年度に同様の試験を行ったが、より長い期間で効果を検証するため、昨年度より設置時期を早めた。ハウス内の最高気温を下げる事ができたが、高温障害果の発生抑制効果は判然としなかった。なお、未設置ハウスと比べ果実の成熟が早まる可能性があるため、収穫時期の違いについて、引き続き調査を行う。	田川市
トルコギキョウ	トルコギキョウ新品種の秋出し適応性の検討	白品種『K508』とピンク品種『K527』ともに3枝の発生割合は高く、花径8cm以上、上位階級2L（75cm以上）を確保でき、現在作付している品種以上の品質であった。このため、両品種は秋出し品種として有望である。	大任町 添田町

## 5 主な実証ほ・展示ほ一覧

田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
トルコギキョウ	秋出しトルコギキョウ栽培における適正な窒素施用量の検討	栽培ほ場の土壌分析を行い、窒素含量が多いほ場における基肥の無施用が切り花品質に与える影響を調べた。無施用区の切り花長および切り花重は慣行区に比べ劣ったものの、上位等階級の割合に大きな差はなかった。このため、窒素が蓄積したほ場において、基肥の減肥が可能であると考えられる。	大任町
畜産	完熟堆肥生産に向けた生産工程管理の検討	堆肥センターの堆肥生産の実態を把握し、完熟堆肥生産の工程管理の検討を行った。調査の結果、堆肥の生産上の問題は特になかったが、最大の懸案は、堆肥舎の西側に長期に滞留している大量の堆肥であった。この滞留が解消され、長期の堆積期間も確保できれば、完熟堆肥の生産も可能ではないかと思われた。	田川市
福岡県農業生産資材協会委託、農業展示ほ・肥料実用化展示ほ			
水稲	サラブレッドGO1キロ粒剤の一発処理剤（移植直後～ノビエ2.5葉期）としての技術実証	慣行薬剤（サラブレッドKAI1キロ粒剤）と同程度の雑草防除効果があり、薬害もなく実用可能である。	香春町
水稲	ラオウ1キロ粒剤の一発処理剤（移植時、移植直後～ノビエ2.5葉期）としての技術実証	慣行薬剤（サラブレッドKAI1キロ粒剤）と同程度の雑草防除効果があり、薬害もなく実用可能である。	香春町
ハクサイ	ファンタジスタ顆粒水和剤の黒斑病に対する防除効果	慣行薬剤（アフェットフロアブル）と同等の防除効果を確認できた。	添田町
ナシ	ミギワ20フロアブルの黒星病に対する防除効果	慣行薬剤（ユニックス顆粒水溶剤）と同等の防除効果を確認できた。	川崎町
その他の実証ほ・展示ほ			
ケイトウ	ケイトウ栽培における育苗トレイの大きさおよび育苗期間の検討	育苗期間を慣行（25日）より5日延長することで、定植の作業時間が短縮し、上位等階級品の発生割合が高くなった。年次間差を含め有効性を確認するため、継続して試験を実施する予定である。	添田町
ホオズキ	施設ホオズキ栽培における地下茎縦挿し苗移植法の検討	切り花の階級別割合は、縦挿し苗移植区では切り花長の短いS規格（30～40cm）が最も多かったのに対し、慣行区では、L規格（50～60cm）が最も多かった。縦挿し苗移植法は、在ほ期間を短縮できるため施設利用率向上に有効であるが、切り花長確保のため、挿し芽および移植時期を早める必要があると考えられる。	大任町

## 6 現地活動情報一覧

No	標 題	日付	係
1	アスパラガスハウスの環境を見える化 ～アスパラガス部会の立茎講習会を開催～	4/14	野菜
2	ネット通販の基本講座を開催 ～これから始めるネット販売～	4/15	地域
3	中古田植機が麦畑で大活躍 ～なぜ田植機が麦畑で疾走するのか～	5/16	水田農業
4	高品質でブランド力ある夏秋なす産地を目指して ～夏秋なす出荷目合わせ会が開催されました～	6/14	野菜
5	盆出しケイトウの県内一の高品質を目指す ～ケイトウ現地検討会開催～	7/14	果樹花き
6	女性認定農業者の育成支援 ～花木（枝物）生産先進地へ視察研修～	7/28	地域
7	スマート農業研修会を開催 ～日射量に合わせたかん水管理の自動化～	8/18	野菜
8	営農基礎講座を開催しました ～栽培技術向上と経営確立を目指して～	8/22	地域
9	適期の栽培管理による高品質化を図る ～秋出しトルコギキョウ現地検討会を開催しました～	9/21	果樹花き
10	4Hクラブ員が農業簿記勉強会を開催中 ～農業簿記の知識を身につけ、経営発展につなげる～	9/30	野菜
11	田川管内で初の大豆採種ほの設置 ～県育成新品種の全面転換に向けて～	9/30	水田農業
12	農福連携研修会を開催しました ～農福連携の基本知識を学ぶ～	10/17	地域
13	筑豊花き連・草花等研究会が現地検討会を開催 ～ニーズに応える多様な品目生産の取組み～	10/27	果樹花き

## 6 現地活動情報一覧

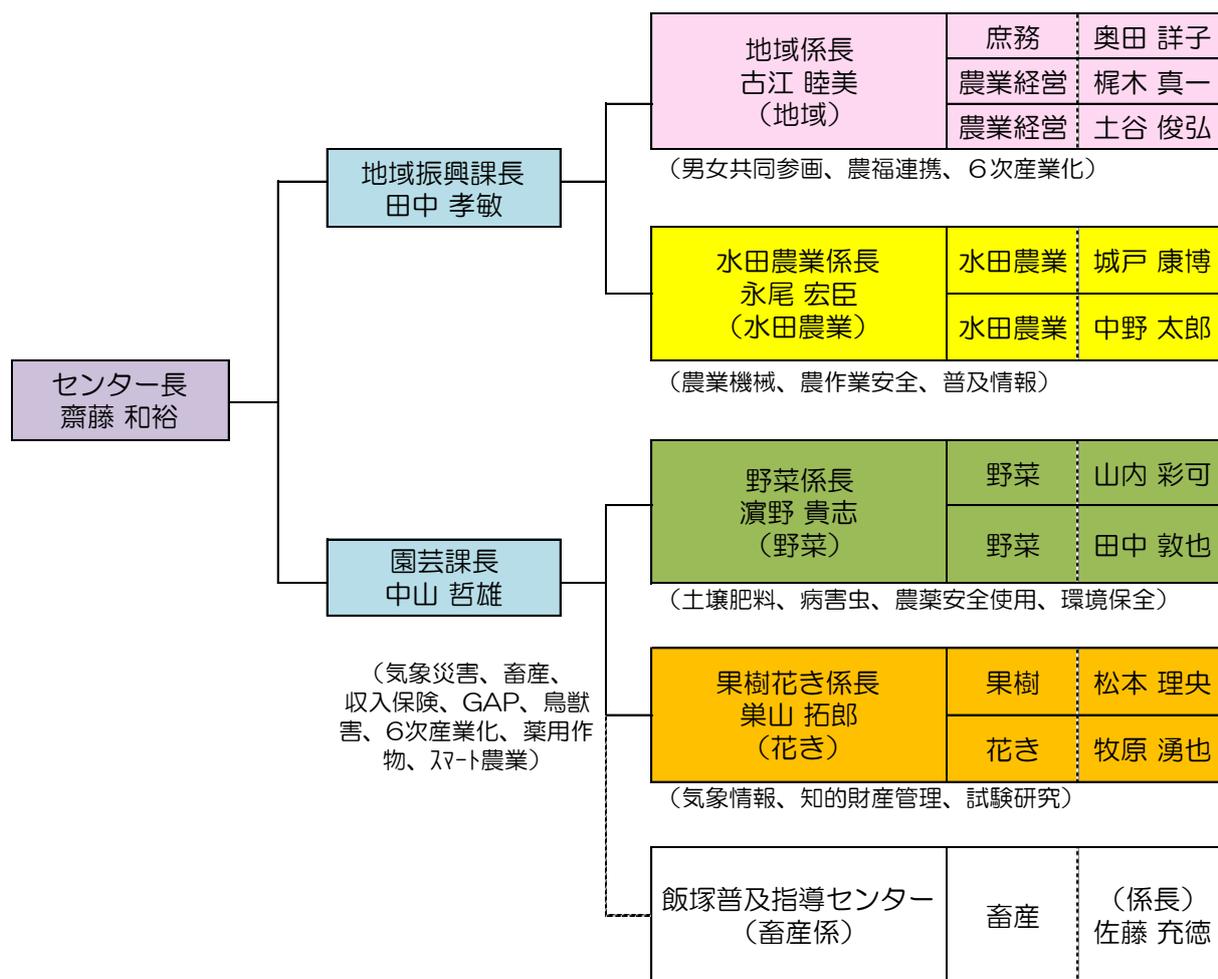
14	農業機械安全研修を開催 ～正しい農機の取り扱い方を身につける～	11/14	水田農業
15	田川地域新規就農者のつどいを開催しました ～先輩農業者からの学びと仲間づくり～	11/14	地域
16	田川4Hクラブがダブル受賞 ～筑豊地区農業青年等合同発表大会が開催されました～	11/25	果樹花き
17	麦の播種前研修会を開催 ～高タンパク質のちくしW2号の産地を目指して～	12/5	水田農業
18	高校生に就農講座を実施しました ～田川地域の農業を知ろう～	12/16	地域
19	田川4Hクラブが県大会でダブル受賞 ～福岡県青年農業者会議が開催されました～	1/10	果樹花き
20	令和4年度田川地域採種研修会を開催 ～種子全量合格を目指して～	2/10	水田農業
21	そらまめ栽培講習会を開催 ～春期の所得確保を目指して～	2/16	野菜
22	衛生管理講座を開催しました ～HACCPに沿った衛生管理手法について～	2/20	地域
23	田川4Hクラブ50周年記念大会開催 ～OB・OGとの交流～	3/1	果樹花き
24	アスパラ部会で土づくり研修会を開催 ～土壌診断結果から土壌診断書の見方を学ぶ～	3/3	野菜
25	筑豊花き連が流通研修会を開催 ～アレンジメント・花束の流行の花材を学ぶ～	3/7	果樹花き

(田川普及指導センターのホームページ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/katsudou-tag2022.html> に掲載中)

## 7 普及指導員調査研究一覧

NO	課題名	結果概要	担当係
1	家族経営協定と認定農業者共同申請の認知度調査	家族経営協定は、言葉の認知度は高いものの、協定の意義やメリットへの理解が伴っていないことが分かった。また、認定農業者の共同申請については、さらに認知度が低い状況であった。 今回の調査結果を活用し、後継者や配偶者が経営に参画している農業者に対し、ライフステージにあわせた協定の意義やメリットの周知を図っていく。	地域係
2	主食用米でのふくおかエコ農産物認証取得者の実態調査による課題整理	認証取得・継続の動機としては、全ての生産者で環境に配慮した農業への関心があり、販売面での主眼は、特定の顧客の要望に応えたい生産者と、商品アピールの一環としたい生産者に大きく分類できた。 また、取得により、販売面では店舗内競争力の向上や商機拡大などのメリットが、生産面では減収や管理時間が増える場合があるなどの課題が確認できた。	地域係
3	小麦の追肥重点型施肥による増収効果の検証	基肥を減肥し、その分追肥を増肥すると、穂数は減るものの、穂長が長くなるとともに千粒重が増加し、慣行区と比較して収量は5%増加した。 生育期間中の雨が多い年では、さらに収量差が広がることも考えられ、引き続き検証を行う。	水田農業係
4	採種大豆の品質向上を目指すカメムシ類防除体系の確立	令和3年産大豆は、カメムシ類の吸汁害により、製品歩留が6割程度になったため、防除体系を再構築した。カメムシ類に対して、従来はネオニコチノイド系薬剤が中心であったが、新たにIGR系薬剤を導入することで、幼虫の密度低下を図り、吸汁害を低減し製品歩留を9割に改善できた。	水田農業係
5	赤村地域の有機トマト栽培実態調査による有機栽培のマニュアル化	有機トマト栽培マニュアルは、栽培を始める前に準備する内容からほ場の跡片付けまでについて取りまとめた。今回の調査結果から、有機栽培で経営を成り立たせるためには、有機栽培認証制度による認証だけでなく、販売手法が大きく係わりを持つことがわかった。	野菜係
6	なす『筑陽』の露地栽培に適した整枝・剪定方法の検討	葉残し剪定法は樹勢維持に有効であるが、7月下旬以降葉の混み合いにより作業性の低下がみられた。葉残し剪定は摘芯前の7月下旬までとし、摘芯後は従来の切り戻し剪定法に戻す方が、『筑陽』の露地栽培に適していると思われる。	野菜係
7	イチジク『とよみつひめ』の無加温ハウスの妻面改良による高温障害果対策	高温障害果の発生抑制を目的に、ハウスに換気窓を設置した。昨年度に同様の試験を行ったが、より長い期間で効果を検証するため、昨年度より設置時期を早めた。ハウス内の最高気温を下げることができたが、高温障害果の発生抑制効果は判然としなかった。なお、未設置ハウスと比べ果実の成熟が早まる可能性があるため、収穫時期の違いについて、引き続き調査を行う。	果樹花き係
8	秋出しトルコギョウ栽培における適正な窒素施用量の検討	栽培ほ場の土壌分析を行い、窒素含量が多いほ場における基肥の無施用が切り花品質に与える影響を調べた。無施用区の切り花長および切り花重は慣行区に比べ劣ったものの、上位等階級の割合に大きな差はなかった。このため、窒素が蓄積したほ場において、基肥の減肥が可能であると考えられる。	果樹花き係

## 8 普及指導センターの活動体制





## 周辺地図



## アクセス

車

国道201号線「長浦」交差点  
より約6分(2.5km)

JR

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道  
「田川伊田」駅より  
徒歩約15分(1.2km)

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道  
「田川後藤寺」駅より  
徒歩約20分(1.7km)



**福岡県飯塚農林事務所 田川普及指導センター**

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2741 番地の5

TEL : 0947-42-1428

FAX : 0947-44-1891

E-mail : [tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704901.html>

福岡県行政資料

分類 番号 PA	所属コード 4703427
登録 年度 04	登録番号 0002